

徹明小学校・木之本小学校の統合新設校の設置場所、開校時期の方針について

集団生活の中で社会性を学ばせることを目的に、各学年複数学級を確保しクラス替えができる学校規模とするため、徹明小学校・木之本小学校の統合新設校の設置場所・開校時期を以下のとおり決定しました。

1 これまでの経緯

- 平成10年8月 岐阜市立小学校及び中学校通学区域審議会（外部有識者・市議会議員で構成）へ諮問
- 平成14年5月 通学区域審議会より答申
- 平成17年3月 岐阜市旧市内学校再編問題協議会（各地区代表者で構成）から意見書の提出
- 平成17年8月 市内中心部の学校統合の方針を決定
- 平成24年1月 徹明小・木之本小統合準備委員会（両地区代表者で構成）の設置・・・11回開催
- 平成25年9月 統合準備委員会から報告書の提出

報告書の要旨 ①統合は必要であり推進する
②通学先の決定は市教委へ委ねる
③地域との跡地活用の継続協議

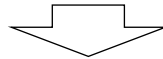
2 統合新設校の設置場所

<地元関係者の主な意見>

- 木之本小になれば、市のまちづくり施策と矛盾する
- 再開発事業により人口増が見込まれ、現在の児童数で判断すべきでない
- 歴史が長く伝統ある徹明小に統合すべき
- 通学の安全面から、児童数の多い木之本小へ統合すべき
- 子どもたちの事を第一に考え、早く統合してほしい

<教育委員会の方針>

- 真に子どもたちの利益のために検討すべき
- 論点は出尽くした
- 子どもたちにとっても、いたずらに決定を先送りすることは好ましくない
- 児童数を除き両校の施設等の比較に大きな差異はない
- 再開発事業による児童数の将来予測は不確実性が高い
- 学校の歴史や伝統は統合小学校に引き継がれていく



両校それぞれを統合新設校と仮定し、両地区に居住する全児童の通学距離を比較した結果、通学距離が短くなる「木之本小学校の施設」を統合新設校とすることが妥当

3 開校時期

校名、校歌、通学路、カリキュラム、校舎改修、子ども会等の検討に約2年間を要するため、当初の目標である平成27年4月開校を見送り、平成28年4月開校とする

4 今後の予定

- 平成26年9月 ⇒ 校名の検討・決定後、「設置条例」改正案を上程
- 平成26～27年度 ⇒ 校歌、通学路、カリキュラム、校舎改修、PTA・子ども会等の検討
- 平成28年4月 ⇒ 統合新設小学校の開校

担当：教育委員会事務局

次長兼教育立市政策審議監

長原 貴幸

TEL：058-265-4141(内線5660)